

1	音楽研究会			部会記録	
日時	平成30年9月5日				
部会名	歌唱部会			主任	原山 史子（三ツ境小）
参加数	22名	司会	谷 瞳（東汲沢小）	記録	稲富 寛恵（本牧南小）
研究内容	研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方				
	歌唱部会テーマ：子どもが、歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動				
	1. 基礎研究 提案者 林 美絵子（能見台南小）				
	○今月の歌 『図書館で会いましょう』について				
	＜選曲＞				
	・リズムのノリがいいので、楽しく歌える。				

<提案者から>

- ・主題について 主題は「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」にしてあるが、児童の実態から、重なりをきれいに歌いたいという思いをもっている子どもが多いため、「全体の響き」にした方が良いかどうか。
- ・参考教材をどう選んでいけばよいか。

<主題について>

- ・子どもたちの思考の流れに合わせた方が良い。
- ・サビからの3度がきれいに歌えるといい。
- ・グループ学習が主題を変えると、今のままだと難しいのではないか。
- ・「もっとこうしたい」という思いを引き出す。
- ・主題の「曲想」や「全体の響き」が完全に分かれているわけではないので、全体の響きの中でも曲想を生かしていけばよい。
- ・3度がうまく重なりができるようなら「全体の響き」の方がよい。曲の出会いは斉唱にし、教師がアルトを歌ってあげてハーモニーの良さを実感させる。
- ・3度の曲にたくさん出合わせておく。

<聴き役について>

- ・音の感じが違うので、実際の場面で聴きあうことがよい。
- ・iPadについては、いろんな音をひろってしまうため、使いにくい。
- ・ビデオについては全体を取り、表情を見る、歌っている様子を見るのには適している。

<参考教材について>

- ・3度の曲に出合わせる。

<児童に配る楽譜について>

- ・子どもには、教科書の歌詞のみの楽譜でよい。
- ・伴奏を弾いてあげる。伴奏つきの楽譜で、主題にあった学習ができる児童は少ないのではないか。難しいのではないか。